

『自ら学ぶ』生徒を育成する学級活動の工夫 —学習スタイルを基にした班編制による話し合い活動を通して—

特別研修員 特別活動 佐藤友貴（中学校教諭）

生徒の自主学習の実態

- ・やる気が出ない。
- ・苦手な教科をしたくない。
- ・やり方が分からない。

教師の願い

- ・苦手なことにも工夫して取り組んでほしい。
- ・分からないことがあっても、調べ、話し合うことで解決できることを知ってほしい。

実践

学級の仲間の悩みを解決することを通して、 自分の勉強の悩みを解決しよう

手立て1 自主学習向上作戦…自己分析による学習スタイルの理解

学習スキルチェックシートで自分の学習スタイルを理解する。自分が悩んでいることをアンケートに記入。自分の得意な教科の学習方法を記入。



「**学習スタイル**」＝「学習の傾向」「学習観」「学習動機」を総合したもの。

「参考：学事出版 学習スキルアップワークシート（山崎茂雄著）」

<学習傾向>

- A 意識化
- B 具体的理解
- C 論理的理解
- D 自己モニタリング
- E 感情コントロール

<学習観>

- A 理解して覚える B 考える過程が大切
- C やり方を工夫する D 失敗から学ぶ

<学習動機>

- A 充実志向 B 訓練志向 C 実用志向
- D 関係志向 E 自尊志向 F 報酬志向

事前（実態）

手立て2 自主学習スキルアッププロジェクト…学習スタイルを基にした班編制の工夫

Point① 得意な教科が同じ生徒で班編制

☆自信を持って発言ができ、活発な話し合いになる。

Point② 学習傾向が違う生徒で班編制

☆様々な学習方法を知り、自己決定に向けた多様な選択肢になる。

<社会班>

「悩み」…地理の勉強の仕方を教えてほしい。

「アドバイス」…本との位置関係を地図から理解して、距離や地域の特徴をイメージしてその国のことを覚える。



本時（話し合い 自己決定）

自己決定 ・友達の学習方法を参考にして、苦手教科の学習に生かしていきたい。

成果 5月と12月の学習スキルチェックの結果

- 学級全体では、学習傾向で「意識化」と「具体的理解」が大幅に増え、学習観では「理解して覚える」と「失敗から学ぶ」が重要だと考える生徒が大幅に増えた。約9割の生徒が新たな学習方法を見いだしていた。また、約6割の生徒が自分なりの学習方法が見つかり、実力テストの結果が伸びていた。
- 学習動機では「充実志向」と「訓練志向」が大幅に高まった。また、「報酬志向」の値は大幅に下がった。
- 自習の時間に難問や分からない問題に協力して取り組んだり、教え合ったりする姿が見られるようになった。

課題

- 新たな学習方法を見いだすことが難しい生徒に関しては、一人一人の実態に合った個別指導の方法を助言するなど自己決定につながる支援をする必要がある。